

論文審査の結果の要旨および担当者

報告番号	※ 甲 第	号
------	-------	---

氏 名	林 桃子
論 文 題 目	コンテンツベースト・イメージリトリ バルに基づくリンケージに着目したイ メージリテラシーの研究

論文審査担当者

主 査	名古屋大学教授	茂登山 清文
	名古屋大学教授	安田 孝美
	名古屋大学教授	石川 佳治
	名古屋大学准教授	遠藤 守

論文審査の結果の要旨

林桃子氏による学位論文「コンテンツベースト・イメージリトリバルに基づくリンケージに着目したイメージリテラシーの研究」は、今日の電子ネットワーク社会における視覚的なリテラシーの重要性を指摘し、イメージ間のリンケージに着目し、大学内にある文化資源情報を形や色などの構成要素を基に類似検索することができるイメージリテラシー・ツールを開発・デザインし、その成果と意義を考察したものである。第1章では、そのモチベーションとなった大学内の文化資源を視覚的に提供することの意義を説き、その人文学的な背景となるバーバラ・スタフォードらを引用しながら、研究の目的と視点、論文の構成について述べている。

第2章では、イメージと実在の文化資源とを様々な角度から見ることを通して、イメージの理解を深めるための、文化資源へと導く携帯情報端末用のウェブシステムを開発している。ウェーブレット変換を用いたコンテンツベースト・イメージリトリバル (CBIR) を通して、文化資源の写真情報と位置情報を提供し、小型の携帯情報端末の特徴を活かして直感的に操作できるインターフェースをデザインし、実験を通してその評価をおこなった。

第3章では、スクリーン上のイメージ同士の連鎖と、イメージと実在の文化資源との連鎖を意識するための、イメージ比較のためのイメージリテラシー・ツールを開発している。ウェーブレット変換を用いた CBIR の特性について検証し、気づきの多いイメージの連鎖を提示するためのインターフェースをデザインし、実験を通してその評価を得ている。

第4章では、イメージリテラシー習得のための効果的な方法への手がかりとして、人が写真を見る際の注視行動の特性を、被写界深度 (Depth of Field) の範囲に着目し分析している。続いて、アイカメラを使用して被験者の注視点データを取得し、その注視行動について考察を加えている。

第5章では、人が写真を見る際の注視行動の特性を考慮に入れた、イメージ間のリンケージを示すイメージリテラシー・ツールを開発している。ツールは、ユーザが選択した範囲から CBIR による特徴量に基づいて示されるリンケージ、注視範囲の共通性や相違性によるリンケージ、ユーザが選択し辿ってきた写真のヒストリーとして示されるリンケージから成り立っている。実験から得られたアンケートへの回答と、自由記述レポートの評価から、ツールの有効性が示されている。

第6章では、イメージリテラシーと表現の組織化という観点から、研究の結論をまとめ、今後の研究の方向性についてふれている。

本研究は、文理融合とデザインの立場から、情報技術を活用し、社会においてそれを活用するという意図のもとに考察された、社会システム情報学専攻の特長にもかなった、すぐれた実践的な研究である。よって本審査委員会は、論文提出者の林桃子氏は、博士 (情報科学) の学位を受けるのに十分な資格があるものと判定した。